

うむい 11号

社報「うむい」について

沖縄の言葉で「思い、願望、考え、所存」のことを「ウムイー」といい、戦争で亡くなっていった人達の思い、そして残された遺族、戦友達の思いを次の世代へと継承すべくつけられた名前。
日清戦争以後、敢然と国難に立ち向かっていった先人たちの尊い精神が、この「うむい」を通して末代まで受け継がれ、真に戦争の無い平和な世の中になるようにとの願いが込められている。



十月二十三日秋季例大祭

天皇陛下御即位二十年 奉祝祭典斎行

昨年(2019年)は天皇陛下御即位二十年の慶賀を迎え各地でお祝いの行事が行われました。十一月二十二日には皇居前広場に六万人の人が集まり「天皇陛下御即位二十年をお祝いする国民祭典」が行われ当社宮司も参列させて頂きました。

十月二十三日当社でも秋季例大祭に合わせ奉祝行事を行いました。この日は朝からぐずついた天気の時折激しい雨に見舞われましたが悪天候にも関わらず多くのご遺族の皆様にご参列頂きました。奉祝行事では、天皇陛下が沖縄の愛楽園へ贈られた「歌声の響き」(詳細はうむい十号掲載)をテープで流し、沖縄玉岳風会の皆様による詩吟や道扇流道扇会の舞踊、また野村流古典音楽保存会の皆様の民謡などが行われました。最後は沖縄の定番、「カチャーシー」(沖縄で踊られる祝賀の踊り)を参列者全員で踊り賑やかに沖縄らしくお祝い申し上げ、天皇皇后両陛下の益々の弥栄をお祈り申し上げました。



ご芳志に感謝とお願い

会長 座喜味 和則

奥武山公園一帯が着々と整備される、平成二十二年の春暖の季節となりましたが、皆様には益々ご壮健でお過ごしのことと存じます。今年のお正月には沖縄県護国神社に約二十四万人の皆様が初詣いただき誠に有難く厚く御礼申し上げます。ここ奥武山公園一帯は、年毎に各施設や環境が整備されつつあります。去る四月三日には新那覇市奥武山野球場「沖縄セルラースタジアム那覇」が完成。約三万人の観客収容、ナイター設備も完備されプロ野球の公式戦も催される壮大な野球場であります。落成日の四月三日は第八十二回選抜高校野球大会決勝戦で興南高校が全国制覇を果たした意義ある日でもあり、今後の沖縄野球界発展に大きな光明をもたらすものと固く信じます。

また来る七月二十八日から沖縄で開催される全国高校総体「美ら島総体二〇一〇」の水泳競技場となる「奥武山水泳プール」が四月にオープンし全国高校生の水泳競技が花々しく競われることと致し。両施設に挟まれた場所にある沖縄県護国神社も昭和十一年創建より七十五周年の記念事業として、バリアフリー整備の事務所、参集所、研修所、ホール、駐車場等を備えた三階建の建坪約二四〇坪の建物と、神社にふさわしい庭園を計画しております。

去る三月八日に起工式を行い工事が着工されました。十一月には見事に竣工して平成二十三年のお正月を迎える事に致しております。ところで建設資金を広くお願いしておりますが予定金額五千万円に対して現在三千八百万円が寄せられ未だ目標額に達していません。是非とも皆様のご芳志を切にお願い致し度く存じます。奥武山公園がスポーツの杜、神社の杜として県民の憩いの場、諸イベントの場所として数多くの方が訪れる事を切に願っています。



オウの炎が立ち昇る

宮司 伊藤 陽夫

奥武山（オウノヤマ）はいま燃えております。オウ（沖縄の古語では神霊の意）の炎が立ち昇っております。ここ奥武山公園は他県に類例が無いほどに整備されてきました。そしてまさに天の時を得て、画竜点睛とも言おうべく、わが神社の新社務所が誕生します。瀟洒にして時代先端的な壮麗さを備えた、建築面積八百平米三階建ての荘厳なる建て物が現出します。多目的使用に配慮する部屋、設備を擁しております。スポーツのメッカともなるこの奥武山公園に、心のメッカ、精神文化の発信センターとして県民から親しまれ、地域社会統合の癒しの館、憩いの館としても活用される参集殿が誕生しようとしております。

御創建七五年、現・御本殿建立四五年、神社関係役員崇敬者の奉賛献身努力の幾星霜を経てやつといまここに、その間蓄積された資料を基に、沖縄県護国神社の、新社務所が誕生いたします。

那覇空港を降りれば沖縄県の玄関がここ奥武山公園です。その入り口にわが神社の鳥居が立っております。県百三十万人口のうち、いえ本島百万強の人口のうち二十四万人の方が、正月三が日の間に参拝下さいます。県民四人に一人の割合で尊い命が失われましたあの戦争における全戦没者の御霊が祀られています。いま逆に県民四人に一人の割合で参拝下さるのです。県民皆さんの親族のうち誰かが必ずこの御社にお祀りされているからであります。

さらに全国各県からの出兵戦没兵士約六万八千柱も祀られている弊社でありますれば、この度の境内整備の暁には、全国からの来県者の皆様も沖縄県玄関入り口の英霊への参拝はこれまで以上に慮られることとあります。

県下をはじめ全国皆様の讃仰崇敬の護国神社として面目一新して生まれ変わろうとしている、弊社への常日頃からの並々ならぬ御協賛を心から感謝申し上げます。

祈念堂に向かわれました。平和祈念像をご覧になられ乍ら沖縄平和祈念館の説明を聞かれました。

次いで豆記者「書友会」のメンバーと親しく懇談をもたれ「ようこそ沖縄へ」と第十七次豆記者の代表挨拶を受け、「今年の夏には軽井沢で・・」と第二十三次豆記者の代表と笑顔を交わされました。昼食時宿泊のハーバービューホテルにて、学術・芸術・文化関係者にご歓談を賜っております。沖縄の文化に並々ならぬご関心を

（全文）は次の通りであります。

「全国各地から参加された皆さんと共に沖縄県において開催される第十九回献血運動推進全国大会に臨むことを誠に喜ばしく思います。我が国の献血運動は順調な発展を遂げ、昨年の献血者数は一昨年を上回り、対人口比の献血率では六パーセントを超えました。また、ここ沖縄県では昨年は一昨年より著しい発展を見せ、献血率では全国平均を大きく上回り、七パーセントに近づきつつあります。このような献血率の向上は誠に心強いことであり、その陰には本日表彰を受けた方々を始め、献血運動を推進してこられた関係者のたゆみない努力があったと思えます。ここに関係者に対し心から敬意と感謝の意を表したいと思います。

誠に申し訳ありませんが、今上陛下の御来島の順序を前号で間違えました。第三回目は、皇太子・同妃両殿下時代の、昭和五十八年七月十二日であります。翌十三日に催される第十九回献血運動推進全国大会に御臨席のための行啓でありました。前号の内容は第四回目の御来島の慶事でございます。謹んで訂正お詫び申し上げます、第三回目の御来島にしまして、ただいまからご紹介させていただきます。

献血運動推進大会に

沖縄にそそがれる大御心（承前）

編集部

昭和五十八年七月十二日あいにくの小雨の中、那覇空港に降り立たれた皇太子・同妃両殿下は、この時も定まったコースのように、まっ先に国立戦没者墓苑に向かわれました。空港付近の沿道では雨天の中、数百人の県民が日の丸の小旗を手に奉迎をしました。なかに「天皇陛下を沖縄県に奉迎しよう」と大書した横幕の旗を掲げる一団もありました。これは「天皇皇后両陛下沖縄県奉迎推進会」が、数年後に迫っている沖縄県当番の国民体育大会への行幸啓を盛り上げようと恋闌の思いをしめしたものです。

墓苑では、鄭重な供花に続く慰霊鎮魂のお祈りを賜り、特別奉迎者にお声をかけられ、平和

をお持ちの殿下ゆえ、話が弾んだ様子が写真記録からは伺えますが、当事者や当局の記録資料があれば貴重なものと思えます。このあと両殿下は沖縄県赤十字血液センターをご視察に向かわれ、センターでは献血者一人ひとりにお声をかけられてねぎらわれました。献血運動推進の率先模範をしめされたのです。翌日の、那覇市民会館における第十九回献血運動推進全国大会でも献血体験発表者にはことのほか懇ろに励ましのお言葉をかけられました。この会場で賜った皇太子殿下からのお言葉

この大会を契機として献血思想が一層普及すること祈り、大会に寄せる言葉といたします。（第五回目を以降は次号で）

御創建 75 年記念御奉賛のお願い

募金申し込み 1口 10,000 円

- ゆうちょ銀行 01730 - 3 - 22456
加入者名 (宗) 沖縄県護国神社
- 沖縄銀行本店 (普) 2155827
- 琉球銀行那覇ポート出張所 (普) 298720
- 沖縄海邦銀行小禄支店 (普) 0524768
名義人 沖縄県護国神社
代表役員 座喜味和則



新事務所全工程工事安全祈願祭にて (11月15日)

請負業者の皆さん

- 設計監理
(有) 設計集団閃
- 施工業者・設備工事
(株) 太名嘉組
(株) 共洋土建
三協電気工事 (株)
國和設備工業 (株)
ヤシマ工業 (株)
沖縄三菱電機販売 (株)
エック石油 (株)
(株) 光エンジニア
(有) 恩納アルミ工業
(有) 丸徳カス産業



現在工事に伴い参道右側に仮社務所がございます。お神札御守などもこちらにて授与しております。尚、ご参拝は通常通りお参り頂けます。

新社務所工事始まる



鉄入れの儀 (地鎮祭)



参集殿取り壊し

昨年の三月十八日設計管理が決定し、また十二月十五日に分離発注にて施工業者が決定しました。メンバーは左記の通りです。また、解体工事を始めとして全工程の工事の安全祈願も一月十五日に行われました。いよいよ着工となり完成が待ち遠しいです。工事の進行状況はホームページにて随時アップして参りますのでご覧ください。info@okinawa-gokokujp

今秋竣工

三月八日「社務所増改築工事地鎮祭及び起工式」が役員総代を始め関係者約七十名参列の下厳粛に斎行されました。

奉賛者御芳名

受付順 申込書通り記載
平成二十二年十月から平成二十三年三月

- | | |
|---|--|
| <p>百万円
神奈川県横浜市 細野静江 様</p> <p>三十万円
沖縄県護国神社 責任役員 嶺井政治 様
徳島県 代表取締役 大城宗憲 様</p> <p>二十万円
沖縄三菱電機販売(株) 代表取締役 大末精一 様
徳島県 代表取締役 阿波根昌信 様 (累計三十万円)</p> <p>十五万円
沖縄県護国神社 代表役員 座喜味和則 様</p> <p>十万円
沖縄県護国神社 監事 山城政治 様
北海道札幌市 代表取締役社長 湧川昌秀 様 (累計二十万円)
徳島県 代表取締役 保月浩 様 (累計十五万円)
徳島県 町田宏・順子 様</p> <p>七万円
九州地区護国神社 様</p> <p>五万円
ヤシマ工業(株) 代表取締役社長 仲田一郎 様
徳島県建設 代表取締役 永田雅則 様
糸満市遺族会糸満支部 会長 高山正哉 様
徳島県 代表取締役 高良正哉 様 (累計十五万円)
啓テシタルクラク 越智啓子 様 (累計六万円)
沖縄県南風原町 菊地徳省 様
沖縄県護国神社 秋永万岐 様
沖縄県那覇市 代表取締役 大野義彦 様
東京都千代田区 新里康信 様
沖縄県神社庁 様</p> <p>四万円
沖縄県久米島町 玉城正三郎 様 (累計七万円)
三万二千元
愛知県春日井市 松本道弘 様
大阪府吹田市 前原盛祥 様 (累計二万円)
沖縄県那覇市 内間敏康 様
徳島県那覇市 石田修 様
徳島県那覇市 橋和歌子 様
徳島県那覇市 大城秀盛 様
徳島県那覇市 佐藤三郎 様
徳島県那覇市 嶺井政孝 様
徳島県那覇市 吉浦彰義 様
徳島県那覇市 宮城則子 様
徳島県那覇市 加藤本善文 様
徳島県那覇市 伊集守明 様
徳島県那覇市 高良勝子 様
徳島県那覇市 宮里高子 様
徳島県那覇市 照屋正次郎、フミ子 様
徳島県那覇市 伊集守明 様
徳島県那覇市 高良勝子 様
徳島県那覇市 宮里高子 様
徳島県那覇市 佐渡ノブ子 様
徳島県那覇市 東前薫 様
徳島県那覇市 石田英六 様
徳島県那覇市 崎原盛淳 様
徳島県那覇市 伊志嶺幸子 様 (累計四万円)
徳島県那覇市 近藤平太夫 様
徳島県那覇市 橋本亜矢 様</p> | <p>三万円
徳島県那覇市 代表取締役社長 町田宗浩 様
徳島県那覇市 代表取締役社長 山城博美 様
徳島県那覇市 山中緑 様
徳島県那覇市 西岡基正 様
徳島県那覇市 益田健太郎 様
徳島県那覇市 徳瀨清栄 様
徳島県那覇市 清水晴彦 様
徳島県那覇市 一橋勝行 様
徳島県那覇市 一橋錦志郎 様
徳島県那覇市 松田博子 様
徳島県那覇市 坪井香議 様
徳島県那覇市 小林真一 様
徳島県那覇市 大城美菜 様
徳島県那覇市 木原章子 様
徳島県那覇市 橋本太郎 様
徳島県那覇市 安部誠司 様
徳島県那覇市 敷内佳江 様</p> <p>二万三千元
鳥取県鳥取市 小谷乙次郎 様
鳥取県鳥取市 小谷つね 様
鳥取県鳥取市 小谷嘉吉郎 様
鳥取県鳥取市 小谷定雄 様
鳥取県鳥取市 小谷美美 様
鳥取県鳥取市 小谷元吉 様
鳥取県鳥取市 小谷實利 様
鳥取県鳥取市 小谷千春 様</p> <p>二万円
京都府京都市 村尾幸子 様
徳島県那覇市 河野友子 様
徳島県那覇市 小野日隆 様
徳島県那覇市 徳瀨テル 様
徳島県那覇市 上村栄一 様
徳島県那覇市 瀬長亀吉 様</p> <p>二万円
徳島県那覇市 代表取締役社長 玉城正範 様</p> <p>一万円
徳島県那覇市 代表 古賀信孝 様 (累計二万三千元)
徳島県那覇市 仲村照子 様
徳島県那覇市 伊藤玲子 様
徳島県那覇市 川根政喜 様
徳島県那覇市 清水隆益 様 (累計二万円)
徳島県那覇市 田場ミヨ 様
徳島県那覇市 大城ノブ 様</p> <p>一万円
徳島県那覇市 代表 我吉屋康 様
徳島県那覇市 大城文子 様
徳島県那覇市 知念春子 様
徳島県那覇市 社司 齋藤毅 様
徳島県那覇市 安里ハル 様
徳島県那覇市 池原秀信 様
徳島県那覇市 仲原重晴 様
徳島県那覇市 馬場道司 様
徳島県那覇市 高良健慎 様
徳島県那覇市 仲吉和美 様
徳島県那覇市 與那城博司 様
徳島県那覇市 與那城ツル 様 (累計一万五千円)
徳島県那覇市 大嶺進 様
徳島県那覇市 高嶺嘉代子 様</p> <p>五千円
徳島県那覇市 又吉敏子 様
徳島県那覇市 宮里芳 様
徳島県那覇市 金城テル 様
徳島県那覇市 眞鶴タツ 様
徳島県那覇市 大城千代子 様
徳島県那覇市 高江洲秀子 様
徳島県那覇市 高江洲良夫 様
徳島県那覇市 山城春子 様
徳島県那覇市 銘巧トヨ子 様 (累計一万五千円)
徳島県那覇市 當路ハル 様
徳島県那覇市 山田千代 様
徳島県那覇市 上里ヨシ 様
徳島県那覇市 新垣千代 様
徳島県那覇市 比嘉千代子 様 (累計一万五千円)
徳島県那覇市 田中マチ子 様</p> |
|---|--|

社務目誌抄

平成二十一年九月〜平成二十二年三月

9月

- 2日 明治神宮越様他一名正式参拝
15日 識名宮例大祭宮司参列
21日 敬老祭
23日 秋季皇靈殿遙拝式
26日 日本女性の会会長小野田町枝様
28日 伊太祁曾神社奥様正式参拝
10月
4日 「建て直そう日本」女性塾伊藤玲子様正式参拝
10日 鎮魂なぐやけの碑慰霊祭宮司参列
10日 那覇まつり成功祈願祭
17日 神嘗祭遙拝式
17日 波上宮神嘗祭当日祭・奉賛会秋祭宮司参列
19日 浮島神社例大祭宮司参列
20日 沖繩神社例大祭加治権欄宜参列
21日 神道政治連盟滋賀県本部九〇

11月

- 1日 普天満宮例大祭宮司参列秋永権欄宜奉仕
1日 丸徳方ス創業祭
3日 明治祭遙拝式
4日 因伯の塔慰霊祭渡辺彌宜、木原巫女奉仕
4日 佐賀県遺族会五〇名並びに佐賀県護国神社宮司宮田豊様正式参拝
4日 八光山二二名正式参拝
4日 岩手県遺族連合会二六名正式参拝
5日 前田高地平和の碑慰霊祭渡辺彌宜、木原巫女奉仕
5日 山口県遺族連盟四一名正式参拝
8日 甲斐の塔慰霊巡拝団六〇名正式参拝
10日 世持神社例大祭宮里局長参列
10日 長崎県沖繩追悼式参拝団八〇名

12月

- 2日 アジア文化研究会荒木幹光様他二名様正式参拝
5日 俳優小西博之様正式参拝
6〜7日 九州地区護国神社出席の為宮司鹿兒島へ出張
8日 沖繩慰霊友好親善訪問団三七名正式参拝
11日 第六十回沖繩戦没者遺族大会参列
10日 長崎の碑慰霊祭宮司参列
10日 栃木県連合遺族会二〇名自由参拝
10日 北海道連合遺族会巡拝団四八名正式参拝
11日 青森県遺族連合会二五名並びに青森県護国神社宮司齋藤毅様正式参拝
11日 みちのくの塔海上慰霊祭渡辺彌宜参列
11日 兵庫県遺族会三九名正式参拝
11日 福島県遺族会二八名正式参拝
11日 大分県遺族連合会四六名並びに大分県護国神社宮司小野日隆様正式参拝
12日 大分の塔慰霊祭「みたま慰めの舞」奉仕

慰霊祭承リマス



昨年11月12日大分県遺族会のご依頼により当社巫女が『大分の塔慰霊祭』において「みたま慰めの舞」をご奉仕させて頂きました。遠く沖繩までお越し頂いたご遺族様と共にご英霊をお慰めできましたことは神社と致しましても大変有難いこととございました。慰霊祭はもとより、このようなご奉仕は私どもも望むところでございます。全国の遺族会の皆様方、お気軽にご相談ご連絡下さい。098-857-2798 (社務所)

永代慰霊命日祭祀新規申込者御芳名
平成二十一年九月〜平成二十二年三月
・大分県玖珠郡 佐藤 清子 様
・北海道札幌市 宮川ミツ子 様

(重複掲載あり)

- 平成二十一年九月〜平成二十二年三月
・沖繩県浦添市 濱松 昭 様
・奈良県天理市 中野 善史 様
・愛知県刈谷市 丹村 要二 様
・沖繩県那覇市 高江洲愛子 様
・岐阜県岐阜市 熊崎 つや 様
・岐阜県岐阜市 岡田きよ子 様
・神奈川県鎌倉市 関 政子 様
・和歌山県有田郡 西本とよ子 様
・佐賀県武雄市 平川 忠雄 様
・沖繩県那覇市 高江洲愛子 様
・北海道静内郡 島瀬 展成 様
・北海道札幌市 松田 博子 様
・東京都武蔵村山市 渡邊 三郎 様
・沖繩県那覇市 伊志嶺幸子 様
・東京都世田谷区 北田 和彦 様
・北海道札幌市 仙北谷 勝 様
・北海道足寄郡 大竹口重幸 様
・沖繩県那覇市 屋良 朝正 様

- 18日 富山県南方戦没者沖繩慰霊塔奉賛会四九名正式参拝
18日 新潟県連合遺族会一三名並びに新潟県護国神社宮司代務者齋藤伸雄様正式参拝
18日 宮崎県遺族連合会三四名正式参拝
18日 ひむかいの塔慰霊祭宮司参列
19日 傷痍軍人会五十五周年式典
19日 宮里局長参列
19日 千葉県遺族会三四名正式参拝
19日 茨城県遺族連合会二四名正式参拝
23日 新嘗祭
23日 末吉宮例大祭宮司参列
24日 埼玉の塔管理委員会七三名正式参拝
25日 神奈川県遺族会七〇名正式参拝
26日 岡山県遺族連盟三七名正式参拝
27日 和歌山県遺族連合会一三名正式参拝

- 23日 天長祭
26日 神符守札
清祇い・助勤者安
全祈願祭
31日 大嘸式・古神札焼納祭・除夜祭
お祝いを受ける助勤巫女等 (12月26日)



元日零時に歳旦祭が斎行され終了後社頭ではラジオ中継がありました。大御所美川憲一?!モノマネの魅川憲一郎さんの歌謡ショーで賑やかに幕開けとなりました。

- 8日 日本和裁士会沖繩県支部針祭
9日 千栗八幡宮一八名正式参拝
11日 紀元祭
15日 雲八幡宮宮司秋永勝彦様他一名正式参拝
17日 祈年祭
17日 JYMA日本青年遺骨収集団一二名正式参拝
18〜19日 九州地区護国神社職員研修会出席の為西谷権欄宜鹿兒島へ出張
21日 札幌市遺族連合会一八名正式参拝
23〜24日 靖国神社時局対策研修会出席の為秋永権欄宜東京へ出張
27日 山形県神社庁四三名正式参拝
28日 山形の塔慰霊祭宮司参列

3月

- 3〜4日 全国護国神社會定例総会の為宮司東京出張
3〜5日 沖繩県神社庁伊勢神宮参拝旅行木原巫女参加
8日 新社務所増築工事地鎮祭斎行
10日 北海道沖繩会一八名正式参拝
11日 北海道沖繩会慰霊祭宮司参列
11日 全日本学生文化会議七名正式参拝
21日 春季皇靈殿遙拝式
28日 ホテルリソネックス海開き

- 2月
2日 京都の塔奉賛会三四名正式参拝
3日 節分祭
15日 新社務所全工程工事安全祈願祭
20日 靖国神社村田総務部長他一名正式参拝
28日 明治神宮崇敬会朝霞支部三四名正式参拝

新職員紹介



出仕 木村健吾
英霊に対する感謝と畏敬の念をもって奉仕させていただきます。
(群馬県出身)



出仕 高良奈緒矢
4月より晴れて神職となりました。誠心誠意お努めさせていただきます。
(沖縄県出身)



退職挨拶

榎宜 渡辺尚武

北海道出身の私は暖かさに憧れて、復帰の翌年(昭和四八年)、沖縄にやってきました。その後昭和五二年七月、北方領土返還を訴えて北方領土へ泳ぎましたが、その泳ぎの練習をしていた時、寝泊りさせてもらったのが沖縄県護国神社でした。ソ連から戻った後も、正月や例大祭等神社の忙しい時、受付やお守り授与・境内清掃・樹木の伐採・運転手等お手伝いしておりまして、昭和五八年四月一日付けで正職員(神職)とし採用されました。私が寝泊りを始めた頃の初詣参拝者は一人にも満たないくらいで、境内は閑散としていておりましたが、今年(平成二十二年)は二十四万人で最高記録を更新中です。この三十三年間の神社奉仕で、一番心に残っていることは、やはり天皇・皇后陛下からお言葉を賜ったことです。平成十一年二月一日から五日間、全国護国神社壮青年神職研修会で皇居勤労奉仕に参加した時の「御会釈」会場でのことでした。団体ごとに両陛下が御会釈されてまわれ、我が団体前にこられた際、団長が団体名・人数・目的を告げられた直後です。
天皇陛下が「沖縄はどなたですか?」
私「ハイ!私です。沖縄県護国神社から参りました」
天皇陛下「沖縄では多くの方が亡くなられて……」
私「十七万七千九百十二柱のご英霊をお祀りいたしております」すると、横におられた皇后陛下が「みたまのお鎮めをお願いいたします」とおっしゃって深々と頭を下げられた。
そして天皇陛下が「これからも遺族の支えとなつて勤められるよう祈つていきます」と、結ばれた。この天皇・皇后両陛下のお言葉は私の一生の宝物となつてしまつてしまつた。
本当に長い間、ありがとうございました。

御奉納いただきました

平成二十二年九月二十二年三月

玉串料御奉納者名 (社務日誌掲載以外)

- ・青森県立文濃高等学校 渡辺英治 様
- ・新宿区下落合 上原善光 様
- ・江別市高砂町 浅野恵子 様
- ・旭川市旭町 櫻岡勝蔵 様
- ・上川郡東川町 上村栄一 様
- ・磯谷郡蘭越町 下條 司 様
- ・さいたま市大宮区 吉沢吉治 様
- ・東京都足立区 屋良友の会 様
- ・横浜市金沢区 マティクス茂理 様
- ・中頭郡中城村 比嘉光宣 様
- ・浦添市城間 仲吉建夫 様
- ・那覇市安里 寺島公文 様
- ・那覇市田原 當間彦太郎 様
- ・天理市標本町 奥田義次 様
- ・札幌市西区 坂井武博 様
- ・札幌市南区 玉井敏郎 様
- ・広島経済大学岡本ゼミナール 高橋 繁 様
- ・浦添市安波茶 真倭之苑 様
- ・奈良県生駒郡 真倭之苑 様
- ・北海道沖縄会 様
- 物品奉納者名
- ・正面幕 (株)ジーマ、ジーマックス 様
- ・正月参拝者用御神酒 二樽 (株)ジーマ、ジーマックス 様
- ・清酒 (株)久米島の久米仙 龍華会 様
- ・泡盛 (株)久米島の久米仙 龍華会 様
- ・鶏卵 沖縄鶏卵販売株式会社 様
- ・国旗 たけや旗染店 様
- ・繭 蘭フラワー 様
- ・掛軸・色紙 鈴木 寿興 様
- ・額入り国旗 三木京三 様
- ・鮮魚 居酒屋「翔」 様

寄贈図書

- ・「杜陸の桜―南部利昭追悼集―」 靖國神社 様
- ・「旌忠叢書九愛知縣護國神社百年史」 愛知縣護國神社 様
- ・「黒糸絨のサムライたち」 宇佐見寛 様

ありがとうございました

編集後記

うむい十一号をお届け致します。本年より本誌「うむい」を年二回春と秋に発行することとなりました。春発行の「うむい小」は発展解消となりました。

さあ、いよいよ新社務所の工事が始まりました。夏の台風が心配ですが、お正月には新しい境内で皆様をお迎え出来ることと思います。また四月より新職員を採用し新体制(立ち上げられ沖縄県護国神社?)でスタート致しました。今の日本に光を放ち、国の柱にならんと社頭隆昌、飛躍発展を目指しています。ご支援よろしく願います。

発行 平成二十二年四月一日
発行所 沖縄県護国神社
〒900-0026
沖縄県那覇市奥武山町四四番地
TEL 098-857-2798
FAX 098-857-7917
編集担当 秋永 万岐
印刷所 (株)うるま印刷